

# 修学旅行新聞

発行所 財団法人 全国修学旅行研究協会  
 〒102-0074 東京都千代田区九段南2-6-8 九段南ビル  
 ☎03(5275)6651  
<http://shugakuryoko.com>  
 e-mail shuryo@h2.dion.ne.jp

財団法人全国修学旅行研究協会(全修協)は、日本の教育の振興に寄与することを目的とし、教育を熱愛し子供たちの幸福を希求する人々の支持を得て、修学旅行の改善向上を目指して、全国的規模で活動する文部省許可の教育研究財団です。

## 沖繩への航空機利用修学旅行に対し 集約輸送実現に向けた検討を組み入れ 平成13年度近畿修学旅行事業計画に

本年6月に開催された近畿地区公立中学校修学旅行委員会(略称「近畿修学旅行委員会」)で、近年、急速に伸びている航空機利用による沖繩修学旅行の航空座席の安定的確保と利用学校の公平化を目的として、平成13年度同委員会の事業計画に「航空機利用修学旅行の集約輸送の実現を図る」ことを決定した。

沖繩圏からの「沖繩修学旅行」の現況  
 沖繩観光コンベンションビューローの調査によると、平成11年12年度における近畿圏からの入込状況は別表のとおり、年々14%前後の伸びを示している。特に2年前までは、10月12月の入込みが圧倒的に目立っていたのが、ここ数年、5月

6月の増加が著しい。また、現時点での13年及び14年度予約状況から推測すると、さらに大きな伸びを示すことは確実である。その主たる要因は、公立中学校の急激な増加によるものと判断でき、その増大要因のほとんどは、近畿圏における公立中学校の増加と、近畿圏の



沖繩ならではのマリンスポーツ体験も盛ん。

△平成14年度 176校  
 △平成13年度 87校  
 △平成12年度 87校  
 △平成11年度 112校

立中学校での航空機利用が社会的に認知及び理解を得たものであり、今後、他の府県においても航空機利用認可への動きが進むものと思われ、その結果、航空機利用による沖繩修学旅行はさらに伸張するものと思われる。これらの状況を踏まえて、昨年9月、同委員会と全修協では、近畿圏(2府4県)の公立中学校を対象に沖繩修学旅行の実施及び計画

中でも、大阪府下・奈良県・兵庫県の公立中学校を中心に、航空機利用の増加が顕著である。結果、「表1」のようした事態は、公立中学校での航空機利用が社会的に認知及び理解を得たものであり、今後、他の府県においても航空機利用認可への動きが進むものと思われ、その結果、航空機利用による沖繩修学旅行はさらに伸張するものと思われる。

△平成14年度 176校  
 △平成13年度 87校  
 △平成12年度 87校  
 △平成11年度 112校

△航空座席の現状  
 前述の3点の中で最大の課題は航空座席の確保である。近畿圏と沖繩を結ぶ大手航空3社の現在の輸送力を修学旅行として最適有効時間帯(往路9:00~11:30発、復路12:00~15:30発)で見ると、本年5月の場合、関西国際空港および伊丹空港を便を合わせて、全部で5便、総座席数は凡そ1800席と思われる。修学旅行に提供される座席数は1日1400座席(全座席の78%)と推定され、本年5月はこの座席を使って公立中学校をはじめ私立・私立高校が沖繩修学旅行を実施した。(3面に続く)



車椅子利用の方々と、心の交流を図りながらバリアフリーを調査  
 栃木県栃木市立栃木西中学校

海外修学旅行をはじめ、自治体や各種団体が主催する青少年の国際交流事業が年々増加している。国際化の進展の中で、21世紀の国際社会に生きる青少年に對して、出来るだけ多く国際理解を図るために海外体験の機会を与えることは、今後ますます重要性を増すであろう。

現在、各都道府県・政令指定都市の教育委員会は、公立高校での国内修学旅行に航空機を利用することをほぼ全国的に認めており(1政令指定都市を除いて)、それが、海外修学旅行の実施許可へと進展している状況になっている。当協会への修学旅行の実施状況は次の通りである。

公立高校	80校
私立高校	16,500人
中学校	30校
小学生	2,500人

交流への基本理念は、海外修学旅行・国際交流を通して、これからの国際社会に生きる若い世代の人たちの国際理解を図り、また広い視野を養うことであり、

## より一層の国際交流を願って

当協会事業の重要施策として積極的な推進に取り組んでいる。従って、これからの日韓両国の青少年交流の重要性・必要性から見て、このたびの歴史教科書問題は大変残念なことであり、且つ、大変憂慮している。今後とも日韓交流を予定・計画している多くの学校や自治体において、延期や中止が更に拡大するのと懸念されるが、せつかく芽生え育てられたい青少年の日韓友協会

## 風紋

第2回高校生自然環境サミットが昨年と同日く1日から3日まで高知県立四万十高校で開催された。開催を実現した関係者に心から拍手を送りたい。高校生の夏休みの新しい行事として定着すること願う。各地で月遅れの盆の行事が行われる家族にとつてはあれこれの理屈なしにその霊を祀る。迎え火、送り火、日本の精神文化の一端である。蒸し暑い夏の夜、団扇片手に見上げる花火に涼を感じ、生活の知恵であり、生活の知恵であり、温暖な言葉や日本の気候は穏やかな過ごしやすさをイメージするが実際は、四季、寒暖、乾雨などその変化や差が特徴である。その中で夏の気温の上昇が過激である。例えば、シンガポールの一番暑い7月の平均気温は28度。東京の昨

年8月の平均気温は28.3度、この限りでは熱帯以上である。人工熱というのだが、この暑さを加速しているのは人間の営みである。それは、異質な現代人の廃熱、良く言えば熱気、別な言い方をすれば狂気を感ずるようなものが日本列島を覆っているように思える。夏の夜のこれは奢りぞあらざる、芭蕉の門人広瀬惟然の句である。せめて、涼を感じる世界を持ちたい。(鴻)

夢と感動の修学旅行  
 人が好き。地球が好き。旅がスキ。  
 近畿日本ツーリスト  
 運輸大臣登録旅行業第20号 (社)日本旅行業協会会員

楽しい旅に 大きな安心。  
 TOKIO MARINE  
 「学校旅行総合保険」をおすすめします。  
 東京海上火災保険株式会社  
 本店 東京都千代田区丸の内1-2-1 ☎03-3212-6211(代表)

修学旅行実施事例紹介 17

生徒たちによるテーマ別体験学習

栃木県栃木市立栃木西中学校

1. 旅行内容  
平成13年6月13日(水)～15日(金) (2泊3日)  
参加人員…3年生198名

2. 学習内容  
◎修学旅行の特徴  
「地域と共に生き、地域に貢献する生徒の育成」を旨とし、数年前より地域学習に取り組んできた。

・第1学年：調査活動「わたしたちの住む栃木市を理解しよう」  
・第2学年：調査活動「職場体験」…「わたしたちの生活を支える地域の職業や産業を調べよう」  
・第3学年：修学旅行2年間の地域学習の成果をさらに深め、別の視点から栃木市を見つ

め直すために、京都・奈良・滋賀の「国際交流」「環境保全」「商業の活性化」「福祉の充実」「歴史的な文化遺産の保護」「観光文化遺産と町づくり」といった生徒達の興味関心の高いテーマによる6コースを設定し、それぞれ別の調査・体験活動を展開した。

学校では、これらの活動をもとに、今後の地元の町づくりに貢献したいと考えている。

②調査結果を栃木市に持ち帰り、自分たちが生活する町が、障害者の方々にとって暮らしやすい「やさしい町」なのかを考えた。今後の「福祉の町づくり」を行う基となる。

＜内容＞  
計画…活動方法の検討、協議、関係各所への依頼  
計画書…活動方法の検討、協議、関係各所への依頼  
計画書の作成



活動グループ編成(4班)内、福祉コースは各グループによるコース作成と、受け入れ先(見学施設等)との連絡・調整

現地…車椅子の方々、介助するボランティアの方々など見学開始。移動は大部分が地下鉄・徒歩による。移動中も会話、質問を通じて自然に打ち解けられた。永観堂や南禅寺では段差により、車椅子が入れず、生徒だけの見学となった。その他、バリアフリー設備の整備されている施設、道路等についての調査を行った。

事後…京都での体験学習を経て、改めて栃

木市の福祉問題について考察した。(地域の障害者の方々の生の声を聞き、悩みや問題点を把握する。その解決のために何が出来るかを話し合い、今後の具体的な活動に活かしていく。)

＜特色＞  
・生徒たちの興味関心による課題設定  
・事前学習として、外部講師による栃木市の現状、問題点の把握  
・地元と修学旅行先を比較しながら、地域性や人々の生き様にふれる  
＜成果＞  
・多くの人たちと出会い、交流し、学ぶことで、誰もが地域を大切に思う心を持ち、

日次	行程
1日目	栃木(6:09)→小山→東京→(10:53)京都→奈良…班別見学…(18:00)京都 [泊]
2日目	・京都市内班別研修 ①環境コース…「琵琶湖水質汚染改善について」 ②文学コース…「京都市内班別文学散歩」 ③商業コース…「錦市場・商業体験と流通の研修」 ④国際理解コース…「外国語としての日本語」 ⑤歴史コース…「京都の町づくりの今」 ⑥福祉コース…車椅子利用の方々との交流及び市内のバリアフリー調査…(18:00)京都市内旅館 [泊]
3日目	クラス別京都市内見学 1組…清水寺(古代友禪染体験) 2組…清水寺、知恩院 3組…清水寺、青蓮院(茶道の体験) 4組…金閣寺、竜安寺、北野天満宮 5組…清水寺(ハッ橋作り体験) 6組…平安神宮、清水寺 …京都(12:27)→東京→小山→(17:28)栃木

教育の窓

改善の方向と内容  
平成十三年四月に生徒指導要録の改善等についての通知が文部科学省から出された。今回の改善では、新しい学習指導要領が、自ら学び、自ら考え、主体的に判断、行動し、よりよく問題を解決する能力や資質などの「生きる力」の育成を旨とした点を重視したことである。

評価に当たって、学習指導要領に示す目標に照らして、その実現状況を見る評価を一層重視するとともに、生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを評価するため、個人評価の工夫などを求めている。

さらに、従前の各教科等の「所見」欄を統合し、生徒一人一人の状況を総合的にとらえるために、「総合所見及び指導上参考となる諸事項」を新たに設けたことがある。

特別活動の記録に関しては、基本的な考え方は現行の生徒指導要録と大きく変わっていない。しかし、「生きる力」の育成を目指す観点から、学級活動、生徒会活動、学校行事の各「内容」について、その趣旨の見直しが行われたこと、事実及び「所見」については、生徒の成長の全体像を把握するため「総合所見



渡部 邦雄  
東京農業大学教授  
元文部省主任視学官

生徒指導要録の改善について

特別活動の記録  
一人の特性に着目し、それらを多面的、多角的に評価して、よき、優れた点、長所、可能性を伸ばし、個性

一人の特性に着目し、それらを多面的、多角的に評価して、よき、優れた点、長所、可能性を伸ばし、個性

をふまえ、豊かな人間性及び指導上参考となる「諸事項」の欄に合わせた記載するようにしたことがあげられる。

すなわち、生徒一人一人の個性に着目し、その長所や可能性を伸ばすことが大切である。

①個性を生かす観点の重視と「生きる力」が全人的な力であること

②評価に当たっての留意点  
一人の特性に着目し、それらを多面的、多角的に評価して、よき、優れた点、長所、可能性を伸ばし、個性

③生徒の成長の状況を総合的にとらえる観点に立ち、生徒の活動状況を観察し、評価すること。

④学校としての評価体制を確立すること。

特別活動の特質上、生徒の活動場面は多岐多様にわたり、指導教師もまちまちである。評価の観点・方法、評価情報の活用など、教師間の共通理解を図り、実効性ある評価システムの構築を図ることが大切である。

安心して生活できる社会を目指していることを実感した。

他地域との比較を行いながら、自分たちの生活する地域を見つめ直し、よりよい町づくりに取り組む上での意欲づけと、生徒たちの地域を見る目を豊かにすることができた。

＜生徒たちの感想＞  
地下鉄には車椅子専用車両があった。  
国立博物館には車椅子専用エレベーターがあった。  
ホームから電車に乗るときに段差があつたので、みんなが持ち上げた。  
二条城には、車椅子の人のためのスロープがあつて、見学しやすくなつていた。

＜課題＞  
より豊かな体験学習のために、さらなる学習内容、方法等の模索を行う。受け入れ先、旅行業者との協議を積極的に進めること、積極的に即した学習内容の充実を目指していく。

訂正  
7月号(第474号)で以下のミスがありましたので訂正させていただきます。  
□第18全国修学旅行研究大会の開催日  
正 平成13年11月22日(木)  
誤 平成13年11月29日(木)  
□日本科学未来館の電話番号  
正 03-3570-9151  
誤 03-3570-9195

古代文化 邪馬台国ルート  
吉岐へ…  
魏志倭人伝に一支国の名で記されている。古代大陸交流の要としてクニを構えていた吉岐。イルカとの共生をはじめ自然とのふれ合いが出来る絶好の教育旅行の場としてお勧めします。

吉岐教育旅行受入協議会事務局  
九州郵船  
TEL (092) 281-0831  
FAX (092) 281-0444  
URL http://www.mapion.co.jp

●修学旅行/林間学校/スキー体験学習  
奥日光の自然と仲間たちとの語らい……

夏は林間学校、冬はスキー  
自然探勝の基地として日光国立公園内にたつ当ホテルをご利用ください  
鉄筋3階建/小学生550名/中学生550名/高校生450名収容/大浴場あり

奥日光高原ホテル  
〒321-1662 栃木県日光市湯元温泉  
TEL. 0288(62)2121(代表)